

Express5800/R120k-1M, R120k-2M

ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用にあたり、ご注意いただきたいことがあります。誠にそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

◇ Index

- 1) はじめに
- 2) 装置起動時に関する注意事項
- 3) システム ROM の機能に関する注意事項
- 4) iL07 の機能に関する注意事項
- 5) OS に関する注意事項
- 6) 全般の機能に関する注意事項
- A) ファームウェア変更に伴う変更点

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載されているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」より、以下の ID で検索してください。

R120k-1M : 3170103010

R120k-2M : 3170103011

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト <https://jpn.nec.com/esmsm/>

NEC サポートポータル <https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

の最新の情報およびバージョンを確認し、利用してください。

● Starter Pack について

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

Web サイトに掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-014.01 以降を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Starter Pack Version S8.10-014」を検索)

● VMware ESXi/ESX のドライバー・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi/ESX のドライバー・サービスモジュールは、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

Web サイトに掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

・ Agentless Management Service

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Agentless Management Service」を検索し、【最新版】と表示される「iL07 FW X.XX.XX 以上専用 Agentless Management Service (VMware ESXi/ESX 8.0/9.0 版)」を適用してください) (X.XX.XX は数字)

・ MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3010101744>

(「PC サーバ/ブレードサーバ (Express5800 シリーズ)」の「MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)」から対象 OS と対象 Starter Pack の「MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)」を選択)

- ・ VMware ESXi/ESX デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「PC サーバ/ブレードサーバ(Express5800 シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバー一覧」を選択)

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時などの保守作業において、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバーの組み合わせによっては、保守作業に時間を要する場合があります。

● Linux のサポートについて

RHEL のサポート状況については、以下の Web サイトを参照してください。

Linux サービスセット対応モデル

<https://jpn.nec.com/linux/linux-os/ss/model.html>

2) 装置起動時に関する注意事項

● 「Memory Initialization - Start」のメッセージで POST 停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、まれに「Memory Initialization - Start」のメッセージを表示し、POST 停止することがあります。本事象発生時は、以下の手順で復旧してください。

- ① 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン)を 4 秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
- ② 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン)を押して、本体装置が正常に起動することを確認してください。
- ③ 再度「Memory Initialization - Start」のメッセージで停止する場合は、システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し、正常に起動することを確認してください。(*)
SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

(*) システム再起動後に Serial Number、Product ID が消失している場合は、メンテナンスガイドの「5.トラブルシューティング」>「5.10 補足事項」>「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目を参照し、Serial Number、Product ID の復旧を行ってください。

事象発生時の POST メッセージ

```
NEC Express5800 System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
```

```
System Chipset Initialization
UPI Link Initialization - Start
UPI Link Initialization - Complete
Early Processor Initialization
Memory Initialization - Start
```

3) システム ROM の機能に関する注意事項

● ユーザーデフォルトのステータス確認方法について

システム ROM バージョン 1.40 適用装置において、システムユーティリティ画面左側のユーザーデフォルトのステータスが正しく表示されません。ユーザーデフォルトのステータスは、以下のメニューから確認してください。

「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options > User Default Options > User Defaults」

システム ROM バージョン 1.44 ではこの問題が修正されていますので、Web サイトに掲載されている最新版の Starter Pack を確認して、アップデートを推奨します。

● Minimum Processor Idle Power Core C-State オプション、および Minimum Processor Idle Power Package C-State オプションの注意事項

以下の設定は工場出荷時のまま使用してください。

設定を変更した場合、訂正不可能なマシンチェック例外や PCI Express エラーが発生し、システム停止に至ることがあります。

- ・ 対象設定および工場出荷時の設定
 - Minimum Processor Idle Power Core C-State : No C-States
 - Minimum Processor Idle Power Package C-State : No Package State
- ・ 設定箇所
「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options
> Minimum Processor Idle Power Core C-State」
「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options
> Minimum Processor Idle Power Package C-State」

また、Workload Profile オプションを以下の設定へ変更した場合にも、上記2項目の設定が変更されることがあります。

- ・ General Power Efficient Compute
- ・ General Peak Frequency Compute
- ・ General Throughput Compute
- ・ Virtualization - Power Efficient

Workload Profile オプションの設定変更後に上記2項目の設定を確認し、設定が変更されていた場合は、必要に応じて Workload Profile を [Custom] に設定したうえで、No C-States および No Package State へ再設定して使用してください。詳細は、メンテナンスガイド(共通編)の「1.3.6 ワークロードプロファイルの設定時の依存オプションについて」を参照してください。

● Enabled Cores per Processor オプションの注意事項

システム ROM バージョン 1.40 適用装置において、Enabled Cores per Processor オプションの設定は変更しないでください。

Enabled Cores per Processor オプションがグレーアウトし、設定が変更できなくなることがあります。

「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Processor Options > Enabled Cores per Processor」

システム ROM バージョン 1.44 ではこの問題が修正されていますので、Web サイトに掲載されている最新版の Starter Pack を確認して、アップデートを推奨します。

● システムユーティリティ上の内蔵 DVD ドライブの表示について

システムユーティリティ上で、内蔵 DVD ドライブの名称が正しく表示されません。

本事象は表示のみであり、機能に影響はありません。

(*) 正しい内蔵 DVD ドライブの名称は、Windows OS のデバイスマネージャーで確認できます。

Linux OS の場合は「lsusb -v」コマンドにて確認できます。

● Backup and Restore Settings での DB/DBX 証明書のリストアについて

システム ROM バージョン 1.40 適用装置において、Backup and Restore Settings メニュー(*1)でバックアップを作成した場合、Backup and Restore Settings のリストア処理において、DB/DBX の証明書が正しくリストアされません。Reset all keys to platform defaults オプション(*2)で初期設定に戻してください。

PK/KEK/DB/DBX/DBT に証明書を個別に登録していた場合、上記設定後に再登録を行ってください。

(*1) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options > Backup and Restore Settings

(*2) BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Secure Boot Settings > Advanced Secure Boot Options > Reset all keys to platform defaults

システム ROM バージョン 1.44 で本問題は修正されていますので、Web サイトに掲載されている最新版の Starter Pack を確認して、システム ROM のバージョンアップを実施した後、再度バックアップを実施してください。

● 工場出荷時の設定について

TPM Visibility(*1) オプションは、工場出荷時に以下のように設定しています。

	2025 年 9 月 21 日以前の 出荷モデル	2025 年 9 月 22 日以降の 出荷モデル
Windows OS プリインストールの場合	[Visible]	[Visible]
その他の場合	[Hidden]	[Visible]

(*1) 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options > TPM Visibility」

4) iLO7 の機能に関する注意事項

● iLO の再起動を行う場合の注意事項

以下に示すタイミングにおいては、iLOの再起動(*1)を行わないでください。

- ・ サーバー起動からOSの起動完了までの間 (POST実行中も含む)。
- ・ システムユーティリティの操作途中。

(*1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、予期しない動作を引き起こす可能性があります。

例えば、POST実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェイスの「Information > Overview」ページにおけるUUID、UUID (論理)の表示が不正な値となる場合があります。また、システムユーティリティの設定変更などの操作の途中でiLOの再起動を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)で「Memory Initialization - Start」のメッセージで停止する場合(*2)や、本体装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報が消失してしまう場合(*3)があります。

もし上記のような不正な表示や動作が発生した場合は、一度本体装置の電源をオフにし、再度オンにしてください。本体装置の電源オフ/オン後も再発する場合は(*2)、(*3)に従って復旧してください。

<対象となるiLOの再起動の方法>

- ・ iLO Webインターフェイスなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- ・ UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

(*2) システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し正常に起動することを確認してください。SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

(*3) メンテナンスガイドの「5. トラブルシューティング」>「5.10 補足事項」>「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目を参照し、Serial Number、Product ID の復旧を行ってください。

● iLO のダウングレードポリシー機能の注意事項

iLO の拡張ライセンスがインストールされている場合、「Security > Access Settings > Update Service > Downgrade Policy」の設定を[Permanently disallow downgrades]に変更しないでください。

[Permanently disallow downgrades]に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、本設定は一度設定を行うと永続的に保持されるため、「Set to factory defaults」から iLO を出荷時のデフォルト設定に戻しても、その他の iLO の各種インターフェイスや各種ユーティリティから設定変更を試みても、[Permanently disallow downgrades]の設定は維持されたままになります。

● iLO Web インターフェイスのセキュリティアイコンに関する注意事項

RBSU の設定や iLO の設定の内容によって、iLO Web インターフェイスのダッシュボードやセキュリティにおいてリスク (赤色) が表示される場合があります。

「Security > Overview > Security Parameters」にて構成の内容を確認することができますので、お客様のセキュリティポリシーに応じて適切なセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO7 ユーザーズガイドを参照してください。

iLO の負荷の状態により「Information > Security Dashboard」の「全体セキュリティステータス」が『リスク』であっても、iLO Web インターフェイス画面の右上部の「iLO セキュリティ」アイコンが無色になる場合があります。

「Information > Security Dashboard」の「全体セキュリティステータス」が現在のセキュリティ状態を示します。

● RESTful API Error が発生した場合の対処について

POST 実行中、まれに以下のような RESTful API Error が表示され、Integrated Management Log (IML) に記録されることがあります。本イベントが記録された場合、各種監視ソフトウェア(*)からの iLO へのアクセスが正しく行えないことがあるため、iLO の再起動を実施してください。

(*) ESMPRO/ServerAgentService、RAID 通報サービス、サーバ診断カルテ、装置情報収集ユーティリティ

例 : Severity:Caution、Event Class : 0xA(UEFI)、Event Code : 0x333 または 0x338

Description : %1 RESTful API Error - Unable to communicate with %2 FW.

BIOS configuration resources may not be up-to-date.

● iLO Web インターフェイスの Agentless Management Service (AMS) のステータスについて

iLO Web インターフェイスの「Dashboard > Host Overview > AMS」において、ステータスが「不明」(または「利用不可能」)(*)と表示されている場合は、Agentless Management Service (AMS) 用のアプリケーションアカウントが作成済みであることを確認してください。

Agentless Management Service (AMS) のアプリケーションアカウントを作成していない場合は、下記の Web サイトに掲載されている「Agentless Management Service (AMS) をご使用時の注意事項」の最新版の内容を確認し、アプリケーションアカウントを作成してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Starter Pack Version S8.10-014」を検索)

Agentless Management Service (AMS) のアプリケーションアカウントを作成している場合でも AMS のステータスが「不明」(または「利用不可能」)(*)と表示されている場合は、iLO の再起動を実施してください。その後、10 分程度経過してから、以下の Agentless Management Service (AMS) の再起動方法に従って、Agentless Management Service (AMS) を再起動してください。

<Agentless Management Service (AMS) の再起動方法>

・ Windows の場合

「Windows の管理ツール > サービス」で「Agentless Management Service」を右クリックし、再起動してください。

・ Red Hat Enterprise Linux 9.x の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad
```

```
# systemctl restart amsd
```

・ VMware ESXi/ESX 8.0/9.0 の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsv restart
```

(*) Agentless Management Service (AMS) のステータスが「不明」(または「利用不可能」)の場合、iLO が一部の情報を取得できないため、iLO Web インターフェイスの「Host > Hardware > Storage > Storage Controllers」や「Host > Hardware > Network」の情報が正しく表示されません。また、この影響により、ESMPRO/ServerManager による IML 監視やエクスプレス通報などが正しく行えない可能性があります。

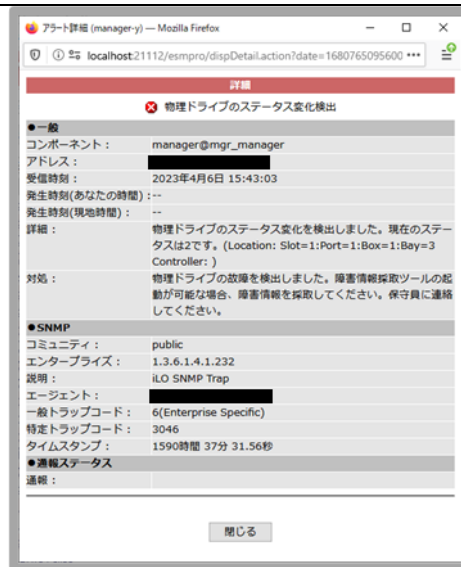
● 物理ドライブの通報に関する注意事項

論理ドライブを構成した環境で物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障に関するエクスプレス通報は通知されません。

また、ESMPRO/ServerManager のアラートビューアでは「物理ドライブのステータス変化検出」が通知され、詳細欄にはステータス値「2」が表示されます。

いずれも、iLO7 の仕様による動作です。

(*) ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(Failed)を示します。



● iLO Web インターフェイスでの N8104-222/224 搭載時のネットワーク表示について

N8104-222 1000BASE-T 接続 LOM カード(4ch)、あるいは N8104-224 1000BASE-T 接続ボード(4ch)を複数枚搭載している場合に iLO Web インターフェイスの「Host > Hardware > Network」で同じ搭載位置に表示される場合がありますが、機能上の問題はありません。

正しい搭載位置は「Host > Hardware > Device Inventory」で確認してください。

● iLO Web インターフェイスでのネットワーク表示について

- ・ iLO7 ファームウェアバージョン 1.21 適用装置では、iLO Web インターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」のアダプターごとに表示される「ネットワークポート」情報において、OS 起動後に LAN ケーブルが未接続の状態では、「リンクステータス」(LinkUp/LinkDown)が正しく表示されない場合があります。
リンクステータスは、OS (Windows Server:ipconfig、Red Hat Enterprise Linux:ifconfig 等のネットワーク情報確認ツール) から確認してください。
- ・ iLO7 ファームウェアバージョン 1.21 適用装置では、VMware ESXi/ESX において、ネットワークケーブルの切断等により任意のポートのリンクダウン発生後、リンクステータスが回復した場合、IML に記録される「All links are down in adapter」(クリティカルイベント)が「At least one of the links is up.」(修正済みイベント)に変更されないことがあります。
iLO Web インターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」のアダプターごとに表示される「ネットワークポート」情報において、いずれかのポートの「リンクステータス」が「OK」と表示されている場合、「At least one of the links is up.」(修正済みイベント)相当の状態であるとみなしてください。

5) OS に関する注意事項

● RAID 監視通報方式について

VMware ESXi/ESX において、RAID 監視通報は SNMP Trap を利用してください。
詳細は、下記の Web サイトを確認してください。

- ・ NEC サポートポータル
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=3140108419>

● VMware OS ご使用時の注意事項

TPM Visibility オプション(*1)を[Visible]に設定して、VMware OS を利用する場合、OS インストール時に生成される Recovery Key を、必ず保管してください。
Recovery Key は、TPM 2.0 Operation オプション(*2)を[Clear]に設定することによる TPM 内部情報のクリアや、保守対応時に必要となります。

- (*1) 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options > TPM Visibility」
- (*2) 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > TPM 2.0 Operation」

Recovery Key の詳細については、以下の Broadcom 社のドキュメントを確認してください。

- ・ ESXi 8.0 : セキュアな ESXi 構成の管理ーセキュアな ESXi 構成のリカバリ
<https://techdocs.broadcom.com/jp/ja/vmware-cis/vsphere/vsphere/8-0/vsphere-security-8-0/securing-esxi-hosts/securing-the-esxi-configuration/managing-a-secure-esxi-configuration.html#GUID-30DA8CC1-5D9F-4025-B5DB-6D592B6BD9B4-en>
- ・ ESX 9.0 : セキュアな ESX 構成の管理ーセキュアな ESX 構成のリカバリ
<https://techdocs.broadcom.com/jp/ja/vmware-cis/vsphere/vsphere/9-0/vsphere-security/securing-esxi-hosts/securing-the-esxi-configuration/managing-a-secure-esxi-configuration.html>

6) 全般の機能に関する注意事項

● USB キーボード/マウス接続時の注意事項

本体装置の USB コネクタにキーボード/マウスが接続されている構成において、POST 中に<F9>キーを押下してシステムユーティリティ画面へ遷移する際、まれに Integrated Management Log (IML)に以下のイベントが登録され、システムが再起動する場合があります。

システムの起動を待ち、再度<F9>キーを押下してシステムユーティリティ画面へ遷移してください。

R120k-1M

Uncorrectable Machine Check Exception (Processor 1, APIC ID 0x00000000, Bank 0x00000004, Status 0xFA000000'000000E0B, Address 0x00000000'00000000, Misc 0x00000000'3D480000).

R120k-2M

Uncorrectable Machine Check Exception (Processor 1, APIC ID 0x00000000, Bank 0x00000004, Status 0xFA000000'000000E0B, Address 0x00000000'00000000, Misc 0x00000000'33480000).

R120k-1M/2M 共通

Uncorrectable Machine Check Exception (Processor 1, APIC ID 0x00000000, Bank 0x00000004, Status 0xFA000000'0005040C, Address 0x00000000'00000000, Misc 0x00000000'00000000).

本事象は、システムユーティリティ起動時のUSB割り込み処理の不備によるものであり、プロセッサなどのハードウェア故障によるものではありません。将来のファームウェアリリースで修正される予定です。

● N8103-248/249/250/251/252 RAID コントローラご使用時の注意事項

N8103-248/249/250/251/252 RAID コントローラのファームウェアバージョンが以下の場合、複数台の NVMe ドライブ接続時に、システムユーティリティのワнтаイムブートメニュー (One-Time Boot Menu)において、物理位置を示す Bay および Box 情報が表示されず、ドライブの物理位置を特定できない場合があります。

対象ファームウェアバージョン : 52.30.3-5917

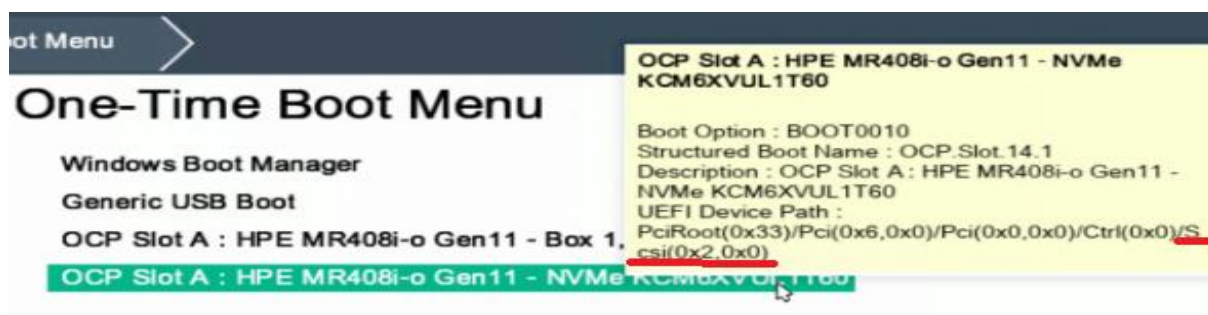
なお、本事象は NVMe ドライブ接続時のみ発生し、SAS または SATA ドライブ接続時には発生しません。

また、RAID コントローラのファームウェアバージョン 52.32.3-6333 にて改修されています。該当する場合は、ファームウェアのアップデートを推奨します。

<確認手順>

ワнтаイムブートメニューで SCSI ID を確認し、iLO Web インターフェイスにて Bay および Box 情報を特定してください。

- ① ワнтаイムブートメニューを開き、SCSI ID を確認します。下記例では SCSI ID が「2」となります。



② 次に、iLO Web インターフェイスの「Host > Hardware > Storage > Volumes」に移動し、ボリューム情報を表示します。

(または「Host > Hardware > Storage > Storage Controllers > (Controller 名)」)

- ・ 表示されるボリューム ID は、ワнтаイムブートメニューで確認した SCSI ID に対応しています。下記例では「MR Volume 2」が SCSI ID=2 の物理ドライブに対応します。
- ・ 「MR Volume 2-Drives-Location」にて Bay および Box 情報を確認できます。下記例では Bay=2、Box=1 となります。

← Host / Hardware / Storage / Volumes
MR Volume 2

Delete Volume

Details

Name	MR Volume 2	RAID Type	None
State	Enabled	Optimum IO Size Bytes	--
Health	OK	Strip Size Bytes	--
Capacity Bytes	1600321314816	Volume Usage	Data
Block Size Bytes	512	Encrypted	False
Durable Name	600062B213387EC0FF00005C8A498C06	Is Boot Capable	False
Durable Name Format	NAA	Logical Unit Number	--
Display Name	MR Volume 2	Read Cache Policy	--
Initialize Method	--	Write Cache Policy	--
IO Perf Mode Enabled	True		

Drives

Name	Location ^	State	Health	Firmware Version	Capacity	Media Type	Media Life	Encryption Ability	Encryption Status
1.60TB 16.0G NVMc SSD	Slot=14 Port=1 Box=1 Bay=2	Enabled	OK	GPk8	1.6 TB	SSD	99%	None	--

● N8115-44 トップカバーオープン検知キットご使用時の注意事項

N8115-44 トップカバーオープン検知キットは、装置のトップカバーが開かれても、POST で警告メッセージを表示しません。

トップカバーが開かれたことを検知すると、サーバーの Health Status が警告に変化し、ステータスランプがアンバー色で点滅、および、以下のイベントが Integrated Management Log (IML) に記録されます。

イベントを参照して、トップカバーの開閉の有無を確認してください。

例: "Caution", 0x0002, "Machine Environment" 0x002F, Intrusion Alert Detection - The server chassis hood is currently not installed."

あるいは、

"Caution", 0x0002, "Machine Environment" 0x0071, Intrusion Alert Detection - The server chassis hood was removed XXXX."

● PCI カードの取り付けに関する注意事項

PCI カードを本体装置に取り付ける際は、PCI スロットに差し込んだ後、PCI カードまたはライザーカードに付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。

なお、工場出荷時に搭載されている PCI カードはネジで固定しています。

● USB DVD ドライブご使用時の注意事項

POST の実行中または BIOS/Platform Configuration (RBSU) の操作中にメディア入り USB DVD ドライブを接続するとキーボード・マウスの操作が一時的に行えなくなる場合があります。

キーボード・マウスの操作が行えない場合、約十数秒間経過してから操作を行ってください。

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の①のポップアップが表示された場合は②以降の手順を厳守してください。

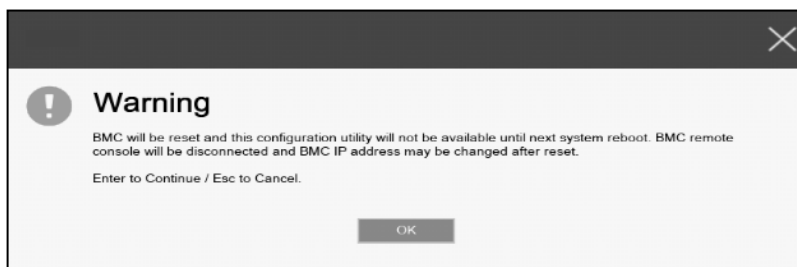
注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization - Start」のメッセージで POST が停止したり、対象サーバーに記録されている Serial Number、Product ID などが消失することがあります。

「Memory Initialization - Start」のメッセージで POST 停止した場合は、システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し正常に起動することを確認してください。

SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

Serial Number、Product ID などが消失した場合の復旧方法は、メンテナンスガイドの「5. トラブルシューティング」>「5.10 補足事項」>「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目を参照してください。

- ① システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning (注意) ポップアップが表示されます。



英語表示の場合

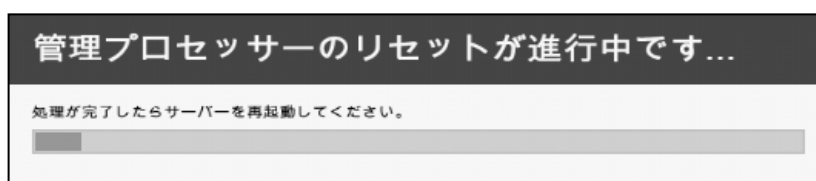


日本語表示の場合

- ② 「OK」を押して進めます。
- ③ iLO の再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
プログレスバーが表示されている状態では、何も操作を行わず、必ず3分以上お待ちください。
3分以内にプログレスバーが終了した場合でも、そのまま3分以上お待ちください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- ④ 3分以上経過後、以下を確認します。
 - A. 本体装置操作時
対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
 - iLO が再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅(毎秒1回)
 - iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
 - B. リモート(iLO Web インターフェイス)操作時
対象サーバーの iLO Web インターフェイスにログイン画面が表示されていることを確認してください。
- ⑤ ④において、iLO の再起動の完了を確認後、<ESC>キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ってください。
- ⑥ システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して対象サーバーを再起動します。

A) ファームウェア変更に伴う変更点

(1) Server Asset Tag オプション

システム ROM バージョン 1.62 以降と iL07 ファームウェアバージョン 1.21 以降の両方が適用されている場合、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Asset Information > Server Information」メニュー配下の「Server Asset Tag」オプションの入力可能な最大文字数が 32 文字から 63 文字に機能強化されます。

オプション	パラメーター	説明
Server Asset Tag	32 文字まで(注2 の条件を満たす場合は 63 文字まで)の英数字と特殊文字 ^(注1) ^(注2)	「Server Asset Tag」のテキスト行を変更するには、本オプションを選択します。

注1 : ~!@#%&*()+`-=[]:”|;’<>.,./ およびバックスラッシュとスペース

注2 : システム ROM バージョン 1.62 以降、かつ iL07 ファームウェアバージョン 1.21 以降の場合、63 文字までの英数字と特殊文字を設定可能。

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft(R)、Windows(R)、Windows Server(R)は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel(R)、Xeon(R)は米国 Intel Corporation の登録商標です。

Linux(R)は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat(R)、Red Hat Enterprise Linux(R)は米国 Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term “Broadcom” refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がある場合は、下記のファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター TEL : 0120-5800-72 受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く) ※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

2026年6月 第3版



* CBZ-065301-001-02 *